

こども教育会議 会議録

日時 平成 31 年 2 月 15 日 (金) 13:30～14:35	場所 武雄市役所 4 階会議室	出席 小松市長、浦郷教育長 教育委員 (一ノ瀬、副島、大庭、馬場) 松尾こども教育部長、山口こども教育部理事 教育総務課 (諸岡課長、樋渡課長代理) こども未来課 (弦巻課長) 生涯学習課 (山北課長) 古賀企画部長 企画政策課 (松尾課長、朝重係長、富永、古川)
1. 協議件名		第 18 回こども教育会議 (教育大綱「組む」のふりかえり)

議事録

内容	<p>1 開会 (進行: 松尾企画政策課長)</p> <p>2 議事 (議事進行: 小松市長)</p> <p>(1) 教育大綱「組む」のふりかえり</p> <p>①話題提供</p> <p>⇒冒頭に、教育総務課から、教育大綱「組む」のふりかえりにあたり、4年間の取り組みについて説明し、その後出席者で意見交換を行った。</p> <p>②意見交換</p> <p><出席者の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども教育会議を4年間で全18回も開催できたのは、首長がそれだけ教育に対し、関心を持ってもらっているからできたことであり、基盤としてとても大事なことである。 ・「組む」という考え方は昔からあったが、その意識、度合いが近年減ってきた。昨今の児童虐待の問題は、周囲の者が気づかないことで発覚の遅れにつながっている。周りの人がいい意味で他者に関心を持つことが必要であり、今後なお一層「組む」ことが重要視されていくのではないか。 ・課題は、取り組んだ事業のフォローアップをどうするか。事業を実施したということ自体が評価されるのではなく、事業を実施したことによりどのようにつながったか、どういう課題が浮き彫りになったかという検証をきちんとやっていくべきである。 ・学校、家庭、地域の連携は昔から言われていることであるが、最近はそのが薄れてきている。いろいろな分野と組むのは大変なことだが、これからは特に大事となっていくことであり、引き続き、取り組んでもらいたい。 ・児童虐待の対応は、特に教育と福祉の連携が重要である。武雄市から虐待等の悲惨な事故を出さないようにしないといけない。 ・4年間の取り組みで特に良かったことは「こどもの笑顔コーディネーター」を設置したこと。子どもや保護者の相談窓口として、学校の先生ができない機能を果たした。保護者にとっても、学校の先生には話しにくいことなども、気軽に相談できる窓口としてよかったのではないか。 ・課題としては就労。障がいのある子や、経済的にきつい子であっても、武雄に住んで、安心して生活できる、そういう受け入れ先となる地元企業が必要である。 ・教育大綱「組む」の下、4年間取り組まれているが、今までやってきたことを大きく変えるのではなく、続けていくことも大事だと感じる。 ・教育大綱がなかったときと比べて、単に方針だけでいった場合と、首長部局と一緒に話し合い、教育大綱の方針をもってやったというのは違った。特に、教育と福祉の連携については強くその点を
----	--

感じる。また、さまざまな相手と連携をすることで、今までできなかった、見えなかったことが発見された、分かったという面では、大変大きかった。

<市長の発言>

- ・事業の評価やフォローアップは大事であり、特に市長部局と教育委員会にまたがるようなもの、例えば福祉と教育の連携や融合などは、こども教育会議がその場になると思う。
- ・「組む」という言葉ができて、市においても福祉と教育の連携が部局だけでなく、職員の意識も数年前に比べかなり進んできていると感じる。これまで関係が薄かったものが、この「組む」という言葉をきっかけに、これから何かできるんじゃないかという視点で、取り組みができたのではないか。
- ・「組む」はそれが目的ではなく、手段であるのでそこは押さえておく必要がある。今後は「組む」という言葉自体の概念を広げる、深めるということが必要だと思っている。「組む」といえば握手のような力強さをイメージするが、力強さだけではない、「そっと見守る」というような優しさまで含めた「組む」があるのではないか。
- ・今回の取り組みの説明では、行政と誰かが「組む」という取り組みが主であったが、市内でも民間企業や団体、地域同士など、行政があまり関わっていないところで「組む」という動きが出てきているのではないかと思う。今後は、行政と誰かが「組む」というだけではなく、地域であり、市民であり、民間、団体同士が「組む」というところを、市がサポートしていくことが、今後大事になってくるのではないか。

3 閉会（進行：松尾企画政策課長）